

丙 条約案ニ対シテハ左ノ通措置スベシ

- 一、手形条約案第一条第二項、第三条及第四条第二項ハ約束手形ニモ適用アルモノトスルヲ可トス
- 二、同第五条ヲ為替手形上又ハ約束手形上ノ約束ノ効力ハ署名者ノ意思ガ證券上明白ナルトキハ其意思ニ依リ然ラザル場合ニハ行為地法ニ依ルモノトスル趣旨ニ改ムルヲ可トス
- 三、小切手条約案第六条ニ小切手上ノ約束ノ効力ハ署名者ノ意思ガ證券上明白ナルトキハ其意思ニ依ルモノトスル趣旨ノ但書ヲ設クルヲ可トス

編 注 本報告書は、昭和五年七月四日付在パリ佐藤国際連盟帝国事務局長より幣原外務大臣宛公信機密連本公第三八

〇号によつて本件会議の報告書として送付されたものである。

六 為替手形、約束手形及び小切手に関する法律統一国際会議

2 「為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ

第二回国際会議報告書」

昭和六年三月二十四日

為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ
第二回国際會議報告書

報告書

瑞西国「ジュネーヴ」ニ於テ開催ノ為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ第二回国際會議ニ帝国代表委員トシテ
参列ヲ命セラレ随員司法書記官佐々木良一大使館三等書記官安東義良ト共ニ同會議ニ列席シ参列ノ各国委員ト商議ヲ遂ケ
タル顛末別紙ノ通り報告ス

昭和六年三月二十四日

帝国代表委員

特命全權公使 川島信太郎

同

判 事 田中右橘

外務大臣	男爵 幣原喜重郎	殿
司法大臣	子爵 渡邊千冬	殿
大蔵大臣	井上準之助	殿
商工大臣	俵 孫 一	殿

目次

総論

第一章 緒言

第二章 会議ノ經過大要

第三章 会議ノ通観

第四章 帝国政府ノ訓令ニ対スル措置

各論

第一章 小切手条約附属書第一小切手統一法

第二章 小切手条約附属書第二留保規定

第三章 小切手ニ関スル法律ノ抵触ヲ規律スル条約

第四章 小切手ニ関スル印紙法条約

総論

第一章 緒言

昭和五年五月十三日ヨリ同六月七日迄「ジュネーヴ」ニ於テ開催セラレタル為替手形約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ国際会議ニ於テハ為替手形及約束手形統一法条約並ニ為替手形及約束手形ニ関スル法律抵触ヲ規律スル条約及印紙法条約ヲ審議作成シタルニ止マリ小切手法ニ関シテハ審議スルニ至ラザリシヲ以テ各国代表ハ同会議最終議定書ニ於テ参加国政府ハ小切手ニ関スル草案ノ補足的審査ヲ為シ其ノ結果ヲ同年十月十五日迄ニ聯盟事務総長ニ通告スヘキ旨ヲ約シ會議ハ右審査ヲ容易ナラシメムカ為最終議定書中ニ二十一ヶ条ノ質問ヲ列記シタリ

右各国政府ノ回答ハ聯盟事務局ニ於テ之ヲ綜合シ各国政府ノ参考ニ供シタルカ右ニ依レハ小切手法統一ノ国際會議ハ成功ノ望アリタルヲ以テ聯盟理事会ニ於テ本年二月二十三日ヨリ為替手形及約束手形及小切手ニ関スル法律統一ノ第二回国際會議ヲ「ジュネーヴ」ニ開催スヘキ旨ヲ決定シ聯盟事務総長ヨリ各国ニ會議参加方ヲ招請シタリ

右招請ニ応シテ會議ニ参加シタル国ハ帝国ヲ初メトシ独逸、奧太利、白耳義、英國、丁抹、「ダンチツヒ」自由市、「エクスアドウル」、西班牙、「フインランド」、仏蘭西、希臘、「ハンガリー」、伊太利、「ラトヴィア」、「ルクセンブルグ」、「メキシコ」、「モナコ」、諾威、和蘭、秘露、「ポーランド」、「ポルトガル」、羅馬尼、瑞典、「チェックスロヴァキア」、土耳古、「ヴェネズエラ」、「ユーゴスラヴィア」ノ三十ヶ国ニ上リ米國ハ「オウザーヴァー」ヲ派遣シ聯盟經濟委員會、國際商業會議所、羅馬私法統一國際協會ノ各代表ハ諮問委員トシテ之ニ参加シタリ

會議ハ予定ノ如ク二月二十三日ヨリ「ジュネーヴ」聯盟事務局ニ於テ開催セラレ連日討議ヲ重ネタル結果小切手法ニ関スル三條約及最終議定書ヲ作成シ三月十九日各国代表之ニ署名シタリ

第二章 會議ノ經過大要

一、會議ノ構成。會議ハ前回ノ如ク和蘭人「ジェー、リムブルグ」博士ヲ議長トシ會議事務総長トシテ聯盟事務局經濟部員「シュメッツ」氏ヲ充テタルカ各國委員ノ顔触レハ大体前ト同様ニシテ議長ハ開会ト同時ニ資格審査委員トシテ「アントニアド」氏（羅馬尼）「フスヌ、ベイ」氏（土耳其）川島代表ヲ又起草委員トシテ「ベルスルー」（仏）「ジャンニイ」（伊）「カッソースキ」（独）「スルコウスキー」（波）「エックペール」（瑞典）ノ諸氏ヲ推薦シ後、抵觸法ノ審議ニ際シテ「ディエナ」教授（伊）ヲ追加シ會議ノ賛同ヲ得タリ

二、議事状況。會議手続ハ前回會議手続ヲ踏襲スルコトニ一決シ専門家案ヲ討議ノ基礎トシタルカ小切手法統一規則中ニハ手形統一法ノ条文引用ノ形式ヲ避ケ手形法トハ独立ノ形式ヲ帶バシムルコト、ナリタリ抑モ専門家案ハ千九百十二年ノ海牙會議ノ決議ヲ基礎トシテ國際聯盟經濟委員會ニ於テ選定シタル専門家委員會ニ依リ作成セラレタルモノナルカ右討議ニ際シテハ各國ノ修正案統出シ専門家案ハ多大ノ變更ヲ蒙リタリ小切手ハ手形ヨリモ発達ノ日尚淺ク各國法制區別ナルト同時ニ實際的慣行モ多端ニシテ之カ統一法ヲ作ラムトスル為ニ多大ノ困難アルハ予想セラレタル処ニシテ議場ニ於テ屢々議論沸騰シタルモ各國トモ良ク協調的態度ヲ持シ充分審議ヲ尽シ各國間妥協ヲ許サザル点ハ之ヲ統一法外ニ置キテ各國ノ自由トスルカ若クハ各國ニ留保ヲ認メ三月十三日漸ク各條約ノ第一讀会ヲ了リタルカ第二讀会第三讀会ニ入リテモ論議ノ結果条文ヲ變更シタル点尠ナカラス

三、會議ノ成果。會議ニ於テ作成セラレタル三條約ハ

（甲）小切手ニ關スル統一法條約（統一法ヲ附屬書一トシ留保規定ヲ附屬書二トシ締約國ニ於テ留保ノ点ヲ除キ統一法ヲ其ノ儘原文又ハ其ノ國語ニテ國內ニ施行スルヲ約ス）及「プロトコール」（批准期間經過後ノ措置及條約實施後締約國間ニ新法律ノ通告ニ關ス）

（乙）小切手ニ關スル法律ノ抵觸ヲ規律スル條約及同「プロトコール」（小切手統一法「プロトコール」ト同様）

（丙）小切手ニ關スル印紙法條約（小切手ニ關スル約束ノ効力ヲ印紙法ノ遵守ニ依リ左右セサルコトヲ約ス）及同「プロトコール」（前同様）

ノ三條約ノ外、最終議定書トシテ條約實施ニ關スル會議ノ諸希望ヲ列挙シタリ

前記三條約ハ何レモ獨立セルモノニシテ各國ハ其ノ中ノ一若クハ二ヲ選ンテ加入スルモ素ヨリ自由ナリ且又手形條約ト同趣旨ニ依リ廢棄條項ヲ入レ條約ノ効力發生後二年間ハ之ヲ廢棄シ得サルモ緊急ト認ムル場合ニハ締約國及聯盟事務局ニ通告セハ右通告到達後二日ニシテ締約國トノ關係ニ於テ夫々廢棄ノ効力ヲ生スルモノト為シタリ

署名期間ハ日本ノ要求ヲ入レ本年七月十五日迄トシ批准期間ハ千九百三十三年九月一日迄トシ本條約ノ効力條件トシテ七ヶ國ノ批准若クハ加入ヲ要シ其ノ中三ヶ國ハ常任理事國タルヲ必要トセルハ手形條約ト同様ナリ

四、條約署名國。前記三條約及最終議定書ハ三月十九日各國代表之ヲ署名シタルカ小切手法條約ヲ署名セルモノ二十ヶ國抵觸法條約ヲ署名セルモノ二十ヶ國印紙法條約ヲ署名セルモノ二十一ヶ國ニシテ英國ハ印紙法條約ノミヲ署名シ帝國代表ハ其ノ何レモ署名セス單ニ最終議定書ニ署名スルニ止メタリ

小切手法條約及抵觸法ヲ署名セル國左ノ如シ

独逸、奧太利、白耳義、丁抹、「ダンチッヒ」自由市、「エクアドル」、西班牙、「フィンランド」、仏蘭西、伊太利、「ルクセンブルグ」、「メキシコ」、「モナコ」、諾威、和蘭、「ポーランド」、「ポルトガル」、瑞典、「チエックスロヴァキア」、土耳其

尚希臘、瑞西、「ユーゴスラヴィア」ハ近ク署名ノ筈ナリ

本會議ハ大陸法系ノ統一ヲ目的トシ可及的ニ「アングロサクソン」法系トノ接近ヲ計ラムトシタルコト前手形法會議ト同様ニシテ仏独伊等カ各其ノ法系ヲ代表シテ會議ノ中心トナリタルハ当然ナルカ瑞典初メ北歐諸國ハ「アングロサクソン」法系ニ接近セルモノアリ其ノ提案ノ多クハ容レラレサリシモ團結シテ活躍シタリ独仏英ノ三法制ヲ取捨採用シ居レル日本ノ立場上我カ重要提案カ容レラレ主張ノ貫徹シタルモノ多カリシハ代表トシテ満足シタル処ナリ
本會議ニ於テハ銀行家等實際家ノ意見屢々勝ヲ占メ法律家学者等ノ意見ハ之ニ制セラレタル傾アリ條約ヲ精密ニ理論的見地ヨリ檢討スレハ多少ノ疑問アルハ免レサルヘキモ各國法系ノ法的觀念ノ相違アリ妥協点ヲ見出シ得サル難点ハ之ヲ統一法外ニ置キタルモノアリ或ハ各國ニ留保規定ヲ認メタルモノアルハ已ムヲ得サルニ出テタル欠点トモ云フヘク過渡時代ニ於ケル措置トシテハ之ヲ以テ失敗ト目スルヲ得サルヘシ、從テ帝國代表ハ日本ニ必要ナル留保ハ之ヲ要求スルト同時ニ他國ノ留保ハ差支ナキ限り之ヲ容認シ之ニ賛成スルノ態度ニ出テタリ、會議ニ於テ各國代表カ夫々自國法制支持ノ見地ニ立チテ主張ヲ闢ハセタルハ云フヲ俟タサルモ同時ニ互讓の態度ヲ失ハス、例ヘハ論議ノ末線引小切手ヲ以テ計算小切手ニ換ヘ両者ヲ統一スルコトハ理論上ヨリモ亦實際上ヨリモ不可能ナリト觀ルヤ多數ハ兩制度併行ヲ統一法中ニ認ムルコトニ同意シ國內小切手ニ就テノミ一方ノミヲ認ムルノ留保ヲ設ケントシタルヲ以テ線引小切手ノミヲ認メシメムトスル日本ノ希望ハ大勢上不可能トナレリ

本會議ハ歐洲本位トナリ動モスレハ歐洲外諸國ノ利益ヲ度外視セントスルニ際シ帝國代表ハ「メキシコ」、南米等ノ諸代表ト連合シ之ニ對抗シ其ノ主張ヲ貫徹シタルカ如キ場合アリ

帝國代表ハ政府ノ訓令ト共ニ手形法條約最終議定書第五條第一ニ對スル帝國政府ノ回答ノ趣旨ヲ体シ之カ貫徹ニ努力スルト共ニ帝國實業界ノ実狀ニ鑑ミ能フ限り「アングロサクソン」法トノ接近ヲ計ルヲ利益ト思考シタルヲ以テ英國委員ノ提案若クハ北歐諸國ノ提案ハ差支無キ限り之ヲ支持スルノ態度ニ出テタリ

之ヲ要スルニ本會議ノ成果ハ統一ノ理想ヨリ之ヲ見レハ未タ充分ナラサルモノアルモ其ノ前途ニ一大光明ヲ与フルモノニ

シテ大陸法ノ統一ニ次キ「アングロサクソン」法トノ統一事業ノ期ヲ早メタルモノト云フヘキナリ殊ニ本會議ヲ通シ帝國ノ主張カ尊重セラレ諸國代表ト隔意ナク折衝シ良好ナル印象ヲ与ヘタルノ感アリシハ帝國代表ノ欣快トスル処ナリ

第四章 帝國政府ノ訓令ニ對スル措置

帝國政府ノ訓令甲ニ關シテハ小切手ニ關スル三條約何レモ手形法條約同様ノ様式ヲ執リ批准ヲ要スルモノトナレリ批准期間署名期間ハ起草委員會案短キニ過キタルヲ以テ我方ヨリ延長スヘキヲ提議シ前記ノ通り批准期間ハ千九百三十三年九月一日迄署名期間ハ本年七月十五日迄ト決定セリ訓令乙ニ關シテハ會議開會ニ先チ「オブザーヴェーション」若クハ提案ノ形ニ仏訳シ事務局ヲ通シ各國委員ニ配布セシメ (Document C.I.L.C/64 参照) 逐條討議ノ際之ニ論及シ訓令貫徹ニ努力シタリ右ノ内六ハ特ニ之ヲ除キ會議ノ形勢如何ニ依リテ適當ナル措置ニ出テントシタルモ條約中ニ線引小切手及計算小切手併用主義ヲ認メタルヲ以テ (各論統一法第三十八條及第三十九條参照) 訓令執行ノ目的ヲ失ヒタリ

訓令乙ノ一、小切手ニ付署名ヲ要スル場合我國小切手ニ付テハ記名捺印ヲ以テ署名ニ代フルコトヲ得ヘキ旨ノ留保ヲ為スコトニ關シテハ手形法條約同様ノ趣旨ヲ以テ會議ノ「ラポート」中ニ本條約ニ云フ署名ノ意義ハ最広義ニ解シ其ノ國ノ慣習ニ依リ紙上又ハ證券上ニ之ヲ為セル人ヲ判然タラシムル為ニ用ヒラル、何等カノ記号ヲ指スモノナレハ日本ノ慣習タル記名捺印モ其ノ一ナル趣旨ヲ認メシメタリ (「ラポート」小切手條約第一條六ノ項参照) (「ラポート」牴觸法條約第五條ノ項モ同様)

乙ノ二、第一條ニ付我國内小切手ニ付テハ振出地ヲ其ノ要件ト為サ、ルコトヲ得ヘキ旨ノ留保ニ付テハ會議ノ容ル、処トナラス依テ右ニ關シテハ本條約ノ効力發生後六ヶ月ニ適用アルヘキ旨ノ留保ヲ容レシメタリ (附屬書第二、第一條参照) 乙ノ三、為替手形及約束手形統一法第四條ハ歐洲諸國ノ實際の必要論勝ヲ制シ否決セラレタリ同第十條ノ準用ニ關シテハ我方ノ主張可決セラル (附屬第一、第十三條参照)

乙ノ四、為替手形及約束手形統一法第二十條ヲ準用スルコトニ關シテハ初メ拒絕證書作成後ノ裏書ニ付之ヲ認メ呈示期間經過後ノ裏書ニ付テハ必要ナシトシテ我方ノ修正案ヲ否決シタルヲ以テ極力其ノ必要ヲ主張シ之ヲ容レシメタリ
乙ノ五、支払呈示期間ヲ十日トスルコトハ歐洲諸國中短期ヲ可トスルモノ多ク否決セラル(附屬第一、第二十九條参照)
乙ノ七、為替手形及約束手形統一法第五十四條ノ準用ハ可決セラル

乙ノ八、時効期間ヲ一年ト改ムルコトハ容レラレス歐洲諸國ハ短期ヲ可トシタリ

訓令丙

査證 (Visa) ノ法律的意思及効果ハ各國ノ法制上区々タルヲ以テ支払保證確認等ノ各國ニ於ケル法律的意思及効力ト共ニ之ヲ會議ノ各代表ヨリ事務局ニ報告シタリ右ハ近ク聯盟事務局ヨリ之ヲ印刷ニ附シ送付シ来ルヘシ

尚抵觸法第七條三號ニ於テ小切手カ引受査證ヲ為シ得ルヤ否ヤ又其ノ効力如何ハ小切手ノ支払地ノ法律ヲ以テ之ヲ定ムル旨ノ規定ヲ置クコトヲ可決セラル

各 論

緒 言

既ニ總論ニ於テ述ヘタル如ク會議ニ於テハ小切手ニ關スル統一法條約、小切手ニ關スル法律ノ抵觸ヲ規律スル條約及小切手ニ關スル印紙法條約ノ三條約ヲ作成シ統一法條約ニ於テハ為替手形及約束手形ニ關スル統一法條約ノ例ニ倣ヒ小切手統一法ヲ條約附屬書第一トシ留保規定ヲ同第二トシ尚右統一法ニアリテハ各標題ニ章ヲ附シ又手形統一法ノ條文引用ノ形式ヲ避ケ手形法トハ獨立ノ形式ヲ帶ハシムルコト、シタリ茲ニハ右三條約ニ付順次ニ各條項ノ討議ノ結果ノミヲ略述セムトス而シテ以下ニ第・・・條ト謂フハ原案ノ條文ヲ指シ新第・・・條ト謂フハ條約ノ條文ヲ指スモノトス

第一章 小切手條約附屬書第一小切手統一法

(第一章) 小切手ノ振出及方式

第一條(新第一條)

原案通可決

訓令乙一及同乙二付テノ帝國代表ノ提案並其結果ハ既ニ總論ニ於テ述ヘタルヲ以テ之ヲ略ス

第二條(新第二條)

本條ハ第二第三項ニ付左ノ修正ヲ見タル外原案通可決新第二條ノ條文ハ左ノ如シ

前條ニ掲ケタル要件ノ何レカヲ具備セサル證券ハ小切手タルノ効力ヲ有セス但シ次ノ諸項ニ規定スル場合ハ此限ニ在ラス

別段ノ表示無キ限り支払人ノ名称ニ附記シタル地ハ之ヲ支払地ト看做ス支払人ノ名称ニ數箇ノ地カ附記シタル場合ニハ最初ニ記載セラレタル地ヲ以テ支払地トス支払地ノ記載ナク且前項ニ依リ支払地ト看做サルヘキ地ノ記載モ存セス其他之ヲ示スヘキ何等ハ表示モナキ小切手ハ支払人ノ主タル營業所 (his principal establishment) ノ所在地ニ於テ支払ハルヘキモノト看做ス

振出地ノ記載ナキ小切手ハ振出人ノ名称ヲ附記シタル地ニ於テ振出サレタルモノト看做ス

註、原案第二項中ヨリ「ニシテ且支払人ノ住所タルモノ」ナル文句ヲ削除シタルハ独逸ノ提案ヲ採用シタルモノニシテ蓋シ其必要ナキニ由ル更ニ本項末段ニ支払人ノ肩書地數箇アル場合ノ規定ヲ追加シタルハ歐洲ニテ使用セラル、小切手用紙ニハ支払人ノ名称ニ附記シテ其各地ニ存スル營業所ヲ列記シアルヲ例トスルニ鑑ミタルモノニシテ和蘭外三國ヨリ夫々提案アリテ右ノ如ク決シタルモノナリ

原案第三項ヲ前記ノ如ク修正シタルハ右四箇国ヨリ夫々修正案ヲ提出シタル結果ニシテ其理由トスルところハ此場合ニ振出地ヲ支払地ト見ルカ如キハ實際ニ適セスト謂フニ在リテ全クノ便宜論ニ出テタルモノナリ帝國代表ハ小切手上ニ表ハレサル事實ヲ以テ小切手ノ効果ヲ律スルノ不当ナルヲ惟ヒ且右修正案ヲ採用セムカ主タル營業所ノ所在不明ナル場合又ハ事實存在セサル場合ニ之カ適用ノ困難ナルヘキコトヲ主張シテ修正ニ対シ強硬ニ反対シタルモ會議ハ多数ヲ以テ修正案ヲ可決シ之ニ反対シタルハ日独外六箇国ノミ而シテ後ニ至リ起草委員會ハ右帝國代表ノ強硬ナル反対アリシニ鑑ミ原案ノ趣旨ニ基ク留保規定ヲ挿入スルニ至レリ（附屬書第二、第三条参照）

第三条（新第三条）

原案第一項ニハ「資金ヲ有スル者」トアリタルモ之ヲ「資金ヲ有スル銀行」ト改メ以テ小切手ノ支払人ハ常ニ銀行タルヘキコトヲ示シタリ斯克修正スルニ因リ原案第五条第一項前段ハ不要ノ条文トナレリ又其後段ハ會議ニ於テ原案ト反対ニ之ヲ有効トスルノ案二十票ノ多数ニテ可決セラレタルニヨリ此趣旨ハ新第三条但書ノ規定ニ包含セラル、ニ至リ是レ亦不要ニ帰シ結局原案第五条第一項ハ之ヲ削除シタリ

新第三条ノ条文ハ次ノ如シ

小切手ハ振出人ノ処分スルコトヲ得ル資金ヲ有スル銀行ニ宛テ且振出人ヲシテ其資金ヲ小切手ニ依リ処分シ得シムル明示又ハ黙示ノ契約ニ從ヒテ之ヲ振出スコトヲ要ス但シ此規定ニ從ハサルモ其證券ハ猶小切手トシテ有効ナルモノトス

註一、銀行ト同一視セラルヘキモノニ関シテハ新第五十四条ニ其規定アリ

二、後日附小切手ニ付テハ新第二十八条参照

第四条（新第五条）

振出人ニ於テ小切手ノ裏書ヲ禁止シ得ルコトヲ本条中ニ明規スルコト、ナリ更ニ原案第五項ハ之ヲ新第六条第一項ニ移

シタリ

新第五条ノ条文左ノ如シ

小切手ハ之ヲ

記名式又ハ指図式ト為シ

受取人ノ名称ヲ記載スルト共ニ「非指図式」("not to order")ト為スカ又ハ之ト同一ナル意義ノ文句ヲ記載スルカ若

クハ所持人払式ト為ス

コトヲ得（原案第一、二項）

受取人ノ名称ヲ記載シ且「又ハ所持人ニ」又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル何レカノ文句ヲ記載シタル小切手ハ之ヲ所持人払ノモノト看做ス（原案第三項）

受取人ノ名称ヲ記載セサル小切手ハ之ヲ所持人払小切手ト看做ス（原案第四項）

註、新第四条ハ原案第十一条第一項ニ該当スルヲ以テ其所ニ至リテ説明ス

新条（新第六条）

既ニ前条ニ於テ説明シタル如ク原案第四条第五項ノ規定ハ之ヲ新第六条第一項トシ又和蘭ノ提案ニ基キ手形統一法第三条末項ト同様ノ規定ヲ小切手ニ付テモ採用スルコトトシ之ヲ第二項ニ置キ尚同国提案ヲ採用シ同一銀行各營業所間ノ送金ニ小切手ヲ利用シ居ル慣行ニ合セシムル趣旨ヨリ第三項ヲ設クルニ至レリ

新第六条ノ条文左ノ如シ

小切手ハ之ヲ振出人自身ノ指図式ト為スコトヲ得

小切手ハ第三者ノ計算ニ於テ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ハ振出人カニ以上ノ營業所 (establishment) ヲ有スル場合ニ其一ノ營業所ヨリ他ノ營業所ニ宛テ、振出ストキ

ノ外振出人自身ニ宛テ、之ヲ振出スコトヲ得ス

新条（新第七条）

本条ハ北欧諸国ノ共同提案ヲ採用シタルモノトス

新第七条ノ条文左ノ如シ

小切手ニ利息文句ノ記載アルモ其記載ナキモノト看做ス

註、新第八条乃至第十一条ハ原案第七条ノ項参照

第五条

原案第五条ハ同第三条ノ項ニ述ヘタル理由ニヨリテ削除セラル

第六条（新第十二条）

原案通可決

註、本条ノミナラス英文原案各条ニ is deemed to be unwritten トアリタルハ總テ之ヲ shall be disregarded ト改メタリ

第七条（新第八条乃至第十一条）

新第八条ハ手形統一法第四条ヲ小切手ニ移シ附スルニ但書ヲ以テシタルモノナリ其条文左ノ如シ

小切手ハ支払人ノ住所ニ於ケルト又ハ其他ノ地ニ於ケルトヲ問ハス第三者ノ住所ニ於テ支払フヘキモノト為スコトヲ得但第三者ハ銀行タルコトヲ要ス

本条ニ関シテハ訓令乙三ニ從ヒ帝國代表ヨリ小切手ニハスル規定ヲ設クル要ナキコトヲ主張シテ之ヲ削除ヲ提議シタルモ独、洪二国ノ賛成ヲ得タルニ止マリ大多数ニテ否決セラレタリ蓋シ歐洲諸国ニテハ小切手ニ付第三者住所ニ於テハ慣行廣ク行ハレ居ルニ因ル

新第九条ハ手形統一法第六条ニ

新第十条ハ同法第七条ニ又

新第十一条ハ同法第八条ニ夫々該當ス

新条（新第十三条）

本条ハ手形統一法第十条ニ該當スル規定ニシテ訓令乙三ニ基ク帝國代表ノ提議ヲ會議ニ於テ採用シタルモノナリ

（第二章）流通 (negotiation)

第八条（新第十四条）

原案第八条ハ多少字句ノ修正アリタルノミニテ可決セラル、ト共ニ會議ハ和蘭ノ提案ヲ採用シテ手形法統一法第十一条

第三項ト殆ンド同趣旨ノ規定ヲ本条第三項ニ置ク

新第十四条ハ左ノ如シ

小切手ハ其ノ記名式ナルトキト雖モ裏書ニ依リテ之ヲ譲渡スコトヲ得

受取人ノ名称ヲ記載スルト共ニ非指図式又ハ之ト同様ノ意義ヲ有スル何レカノ文句ヲ記載シタル小切手ハ通常債權ノ譲渡ニ関スル方式及効力ヲ以テノミ此ヲ譲渡スコトヲ得

裏書ハ振出人其ノ他小切手上ノ義務ヲ負担セル何人ニ対シテモ此ヲ為スコトヲ得是等ノ者ハ更ニ其ノ小切手ヲ裏書スルコトヲ得

註、右第三項ハ為替手形ニ於ケルト異リ支払人ニ対スル裏書ヲ許サス蓋シ小切手ニ付テハ新第十五条第五項アルニ由ル（次条参照）

第九条（新第十五条）

原案第九条ハ其ノ第三項ヲ和蘭其ノ他北歐諸國ノ提案ニ依リテ修正シタルト其ノ第四項ヲ瑞西ノ提案ニ從ヒテ修正シタル上本条ヨリ削除シ新第二十条ニ移シタル外ハ多少字句ノ修正アリタルノミニテ原案通可決セラレタリ

新第十五条ハ左ノ如シ

裏書ハ單純ナルコトヲ要ス裏書ニ附シタル条件ハ總テ之ヲ記載セサルモノト看做ス

一部ノ裏書ハ之ヲ無効トス

支払人ノ裏書モ亦無効トス

「所持人ニ」ノ裏書ハ之ヲ白地裏書ト看做ス

支払人ニ対シテ為シタル裏書ハ受取証ノ効力ノミヲ有ス但支払人カ數個ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テ小切手ノ振宛テラレタル營業所以外ノ營業所ニ対シテ為シタル裏書ハ此ノ限りニアラス（註）

註、是レ本店ヲ支払人トセル小切手ヲ其ノ支店ニ対シテ裏書スルカ如キ場合ヲ見タルモノナリ

第十条（新第十六条乃至第二十三条）

左ニ特記スルモノ、外原案通可決即チ

新第十六条ハ手形統一法第十三条

新第十七条ハ同法第十四条

新第十八条ハ同法第十五条

新第十九条ハ同法第十六条第一項ト全ク同様ナリ

新第二十条ハ既ニ前条ノ項ニ述ヘタル如ク原案第九条第四項ヲ修正シタルモノニシテ其ノ条文ハ左ノ如シ

所持人払ノ小切手ニ裏書ヲ為シタル裏書人ハ償還請求權ヲ律スル規定ニ從ヒテ責任ヲ負フ但之カ為メニ其ノ小切手ハ指圖式小切手ト變スルコト、ナシ

新第二十一条ハ和蘭ノ提案ニ基キ手形統一法第十六条第二項ノ趣旨ヲ採用スルト共ニ所持人払小切手ノ取得者モ均シク保護セラルヘキモノナリトシテ左ノ如ク規定スルニ至レリ

喪失ノ事故ノ如何ヲ問ハス小切手ノ占有ヲ失ヒタル者アル場合ニ於テ其ノ小切手カ所持人払式ノモノタルト或ハ又所持人ニ於テ第十九条ニ規定スル方法ニ依リ其ノ權利ヲ証明スヘキ指圖式ノモノタルトニ拘ラス右小切手ノ占有ヲ取得シタル者ハ之ヲ返還スルコトヲ要セス（註）但惡意ヲ以テ之ヲ取得シ又ハ之ヲ取得スルニ當リ重大ナル過失アリタル場合ハ此ノ限りニ存ラス

註、此ノ場合指圖式小切手ノ取得者カ第十九条所定ノ方法ニ依リ其ノ權利ヲ証明スルヲ要スルハ勿論ニシテ單ニ占有ヲ取得スレハ足ルノ意ニハアラス

新第二十二條ハ手形統一法第十七條

新第二十三條ハ同法第十八條ニ夫々該當ス

新條（新第二十四條）

帝國代表ハ訓令乙四ニ從ヒ小切手法ニモ手形統一法第二十条ト同旨ノ規定ヲ置クヘキコトヲ提案シ既ニ總論ニ於テ述ヘタル如キ經過ノ下ニ結局我提案採用セラレ左ノ如キ新條ヲ設クルニ至レリ

支払拒絶証書作成後又ハ之ト同様ナル宣言後若クハ呈示期間經過後ノ裏書ハ通常ノ債權讓渡ノ効力ノミヲ有ス
反對ノ証拠ナキ限り日附ノ記載ナキ裏書ハ支払拒絶証書作成前又ハ之ト同様ナル宣言前若クハ呈示期間經過前ニ之ヲ為シタルモノト推定ス

第十一條（新第四條）

原案第一項ヲ其ノ儘可決シ之ヲ新第四條トシタリ

(第三章) 手形保證

第十二条(新第二十五条乃至第二十七条)

原案第十二条第一、二項ヲ新第二十五条第一、二トシ其ノ第一項ハ「ポーランド」ノ提案ヲ採用シテ手形統一法第三十条第一項ト同様ニシ其ノ第二項ハ単ニ原案ノ字句ヲ修正シタルノミ

新第二十五条ハ左ノ如シ

第一項 小切手ノ支払ハ其ノ金額ノ全部又ハ一部ニ付手形保証ヲ以テ之ヲ担保スルコトヲ得

第二項 原案第二項ニ同シ

註、小切手ノ支払人ハ手形保証ヲ為シ得ストシタル所以ハ其ノ振出人ノ為メニスル保証ハ引受ト混同セラル、虞アリ又其ノ裏書人ノ為メニスル保証ハ短期支払証券タル小切手ニハ之カ実用無カルヘシトノ見地ニ基クモノトス

原案第十二条第三項ハ

新第二十六条ニ於テ手形統一法第三十一条

新第二十七条ニ於テ同法第三十二条

ト夫々同様ナル規定ヲ為シ結局原案通可決セラレタルニ帰ス

註、手形統一法第三十一条第三項但書ニハ「支払人又ハ振出人ノ署名ハ此ノ限ニ在ラス」トアルモ新第三十一条ニ於テハ右ノ支払人又ハ削除シタリ蓋シ小切手ノ支払人ノ為ス手形保証ヲ認メサルニ依リ支払人ニ付スル但書ヲ必要トセサレハナリ

(第四章) 呈示及支払

第十三条(新第二十八条)

原案通可決

本条ニ関聯シテ後ノ日附ヲ記載シテ発行セル小切手(以下単ニ後日附小切手ト呼ブ)ヲ法律上如何ニ取扱フヘキカノ問題ニ付各国代表ノ間ニ論議ヲ生シ多数ノ国ハ後日附小切手ノ有効ナルコトヲ認ムルモ同時ニ又其ノ弊害尠ナカラストナシ独逸和蘭其ノ他北欧諸国ハ後日附小切手ノ所持人ハ日附前何時ニテモ支払呈示ヲ為シ得ヘキモノト定メテ後日附ノ効果ヲ失ハシムヘシト主張シ從來日本ニ於テ認メラレタルカ如ク右日附其ノモノヲモ有効ト認ムル国ハ瑞西一國アルノミ之ニ反シ「ポーランド」及「ユーゴスラヴ」等ハ此ノ小切手ヲ全然無効トスルノ法制ヲ維持シタキ旨主張シタルカ會議ハ和蘭案ヲ討議ノ基礎トシ結局大多数ヲ以テ同案ノ趣旨ヲ採用スルニ決シ之ヲ新第二十八条ノ第二項ニ置クコト、シタリ蓋シ小切手ハ常ニ一覽払ニシテ何時ト雖モ其ノ呈示アリタル時ニ支払ハルヘキモノナリト云フ点ニ重キヲ措キ從テ日附後ノ呈示ヲ希望スル振出人ノ意思ハ之ヲ容認スヘキニアラストナシタルモノナリ

新第二十八条ハ左ノ如シ

第一項 原案第十三条ト同シ

第二項 小切手ハ之ニ振出日トシテ記載セラレタル日附前ニ支払ノ為メ呈示セラレタルトキト雖モ其ノ呈示ノ日ニ於テ支払ハルヘキモノトス

第十四条(新第二十九条第三十一条)

小切手ノ呈示期間ニ付テハ欧大陸ニ属スル国ノ多クハ国内小切手ハ勿論國際小切手ニ付テモ各国ノ法制ヲ統一センコトヲ主張シ日、英、「ブラジル」「メキシコ」「ベネズエラ」等ハ斯ル劃一的規定カ歐洲以外ノ諸国ニモ適用セラルヘキコトニ反対シ討議ヲ尽シタル結果附屬書第二十四条ニ定ムル留保規定ヲ認メテ左ノ如キ劃一的規定ヲ為スニ至レリ猶ホ帝國代表ハ本条ニ関シ訓令乙五ニ基ク修正案ヲ提出シタルトコロ其ノ趣旨ハ會議ニ認メラレタルモ期間八十日ヲ八日ト短縮セラレタリ但前記留保規定ニ基キ吾國ニ於テ之ヲ十日ト定ムルモ妨クル処ナシ

新第二十九条ハ左ノ如シ

自国内ニ於テ振出し且支払ハルヘキ小切手ハ八日以内ニ之ヲ支払ノ為メ呈示スルコトヲ要ス
小切手カ其ノ支払ハルヘキ国以外ノ国ニ於テ振出サレタルモノナルトキハ振出地ト支払地トカ共ニ同一大陸 (continent) ニ存ルカ若クハ夫々別ノ大陸ニ存スルカニ從ヒ二十日若クハ七十日ノ期間内ニ之ヲ支払ノ為メ呈示スルコトヲ要ス

本条ニ関スル限り欧大陸ノ一国ニ於テ振出し地中海沿岸ノ他ノ国ニ於テ支払ハルヘキ小切手若クハ之ト反対ノ小切手ハ振出地支払地共ニ同一大陸内ニ存スルモノト看做ス (註一)

本条ノ規定スル各期間ハ何レモ小切手ニ振出日トシテ記載セラレタル日ヲ以テ起算日トス

註一、土耳其、「シリヤ」、「パレスティン」、埃及及地中海沿岸北阿諸殖民地ハ之ニ包含ス

即チ原案第十四条第一、二項ハ右新第二十九条ノ如ク修正セラレ而シテ其ノ第四項ハ之ヲ別条ニ移スコト、シタリ新第三十一条ノ規定是ナリ

新第三十一条ハ原案第十四条第四項ト全ク同様ナリ

註、新第三十条ハ原案第十五条ノ項参照

第十五条 (新第三十条)

原案ノ字句ヲ修正シタルモ趣旨ニ於テ異ル処ナシ即チ

新第三十条ハ左ノ如シ

振出地ト曆ヲ異ニスル地ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニ在リテハ其ノ振出日ハ支払地ノ曆ノ応当日ヲ以テ見ルモノトス

第十六条 (新第三十三条)

手形統一法ニ存セサル斯ル規定ヲ特ニ小切手ニ付設クル所以ハ英國其ノ他二三ノ国ニ於テハ振出人死亡セハ当然ニ支払

委託ノ取消トナル法制ヲ採レルカ故ニ此ノ法制ヲ認メサル趣旨ヲ明白ニスル必要アルニ由ル然レハ小切手ニ付特ニ此ノ

規定存シ為替手形ニハ之レ無キヲ理由ニ為替手形ニ付反対解釈ヲ為スカ如キハ許サルヘキコトニアラス此ノ点ハ「ラ

ポート」中ニ記載セラル而シテ原案ハ其ノ字句ヲ修正シテ左ノ如ク改メラレタリ即

新第三十三条ハ左ノ如シ

小切手ノ振出人カ振出後死亡シ又ハ其ノ能力ヲ失フモ小切手ニ関スル法律關係ニ影響ヲ及ホスコトナシ

註、新第三十二条ハ新条ニシテ次ニ掲ク

新条 (新第三十二条)

専門委員ハ各国カ呈示期間内ニ於ケル小切手ノ支払委託ノ取消ヲ防圧スヘキ私法上ノ手段ヲ執ルヘキコトヲ勧告スルニ止メタルモ (原案第十六条勧告ニ) 會議ハ統一法中ニ之カ規定ヲ設クルニ決シ新第三十二条ニ左ノ如ク規定ス

小切手ノ支払委託ノ取消ハ呈示期間經過後ニ於テノミ其ノ効力ヲ生ス

支払委託ノ取消ナキ限り支払人ハ呈示期間經過ノ後ト雖モ小切手ノ支払ヲ為スコトヲ得

尚會議ハ一旦本条ノ外ニ「記名式又ハ指図式小切手ノ振出人カ其ノ小切手ヲ直接支払人ノ許ニ送付シ之ヲ受取人ニ交付シ又ハ其ノ金額ヲ受取人ニ支払フヘキコトヲ委託シタル場合ニ於テハ右小切手カ該受取人ニ交付又ハ支払ハレサル間ニ限り振出人ニ於テ支払委託ノ取消ヲ為スコトヲ得」ト言フ規定ヲ設クルコトニ決シタルカ右ハ未タ真ノ振出アリタリト目スヘカラサル場合ニ関スル当然ノコトヲ規定スルニ過キサレハ報告中^{「ラポート」}ニ之ヲ記載スレハ充分ナリトシテ第二読会ニ於テ削除シタリ曩ニ電報々告ニ於テ支払委託取消ノ問題ニ付稀ニ適用ヲ見ルヘキ例外ヲ認ムト云ヘルハ此ノ規定ヲ指シタルモノトス

第十七条 (新第三十四条)

原案通可決

新条(新第三十五条)

會議ハ伊太利ノ提案ヲ採用シテ小切手ニモ手形統一法第四十条第三項ト同趣旨ノ規定ヲ設クルコトニ決シタル処後ニ至リ「チェックスロバキヤ」代表等ヨリ異論出テ結局右第三項後半ノミヲ小切手統一法ニ移スコト、シ之ヲ新第三十五条トシタリ從テ支払人カ小切手ノ支払ヲ為シタルトキ惡意重過失ナキ限りハ其ノ責ヲ免ル、ヤ否ヤハ本統一法ノ關スルトコロニ非スシテ各国法ニ委セラレタルモノトス

新第三十五条ハ左ノ如シ

裏書アル小切手ノ支払ヲ為ス支払人ハ裏書連続ノ正規ナルコトヲ確認スルノ義務アルモ裏書人ノ署名ノ真偽ヲ調査スル義務ナシ

新条(新第三十六条)

會議ハ小切手ニ付テモ手形統一法第四十一条ト同趣旨ノ規定ヲ必要ト認メ新第三十六条ニ於テ其ノ第一項ヲ左ノ如ク定メタル外第二項乃至第四項ハ全ク手形統一法第四十一条ノ第二項乃至第四項ト同様ナル規定ヲ設ケタリ

新第三十六条

第一項 支払地ニ於テ通用セサル貨幣ヲ以テ支払金ヲ記載シタル小切手ニ於テハ其ノ小切手ノ呈示期間内ニ在リテハ、
支払日ニ於ケル価格ニ依リ其ノ国ノ貨幣ヲ以テ支払金額ヲ支払フコトヲ得若シ小切手ヲ呈示スルモ其ノ日ニ支払ナ
カリシトキハ所持人ハ小切手ノ金額ヲ其ノ選択ニ依リ呈示ノ日ノ為替相場又ハ支払ヲ為ス日ノ為替相場ニ從ヒ其ノ
国ノ貨幣ヲ以テ支払フヘキ旨ヲ請求スルコトヲ得

第二項 手形統一法第四十一条第二項ニ同シ

第三項 同上第三項ニ同シ

第四項 同上第四項ニ同シ

(第五章) 線引小切手及計算小切手

第十八条(新第三十七条及第三十八条)

本条ニ關シテハ独、奥、洪、瑞、「ユーゴスラヴ」「チェックスロバキヤ」ノ六ヶ国共同シテ統一法ニハ海牙案(第十九条及第二十条)ト同様線引小切手ノ外ニ計算小切手ノ制度ヲモ認メテ各締約国ニ許スニ其ノ領土内ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニ付テハ何レカ一ヲ認メサルコトヲ得セシムヘシトノ提案ヲ為シ伊葡ノ二国亦統一法中ニ計算小切手ノ制度ヲ認メテ之カ方式及效果ヲ規定スヘシト提議シ會議ニ於テハ統一法ニ於テ両制度ヲ併セ規定スルコトニ反対スルモノ殆ント無クスノ如クスルニ依リテ初メテ将来ニ於ケル各国小切手法制ノ統一ヲ期シ得ヘシト為シ唯タ各締約国ニ如何ナル留保ヲ認ムヘキカノ問題ニ付大ニ議論沸騰シ結局附属書第二十八条ノ留保規定ヲ採用シテ統一法ニハ右両制度ヲ併セ規定スルニ至レリ事情斯クノ如クナルヲ以テ帝國代表ハ訓令乙六ニ基ク提議ヲ為スノ余地無ク仍テ專ラ我國ニ最モ便宜ナル留保規定ヲ設ケシムルコトニ意ヲ用ヒタリ而シテ線引小切手ニ付テハ和蘭其ノ他ノ北歐諸国ノ修正案ヲ採用シ原案ハ一箇条ノミナリシモ之ヲ二箇条ニ分チ新第三十七条ニ於テハ線引ノ方式ノミヲ定メ其ノ効果ハ新第三十八条ニ之ヲ規定シ線引小切手ノ支払ヲ受ケ得ル者ヲ銀行又ハ支払人ノ得意ト改メ又銀行カ線引小切手ヲ取得シ得ル場合ヲ限定シタリ即新第三十七条ハ左ノ如シ

小切手ノ振出人又ハ所持人ハ小切手ニ線引ヲ為シテ次条ニ定ムル効果ヲ生セシムルコトヲ得

線引ヲ為スニハ小切手ノ表面ニ二条ノ平行線ヲ引クコトヲ要ス線引ハ一般的又ハ特定のタルコトヲ得

二線内ニ何等ノ記載ヲ為サルカ若クハ銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル語(註)ヲ記載シタルトキハ之ヲ一般線引トス又二線内ニ一銀行ノ名称ヲ記載シアルトキハ之ヲ特定線引トス

一般線引ハ之ヲ特定線引ニ變更スルコトヲ得ルモ特定線引ハ之ヲ一般線引ニ變更スルコトヲ得ス

線引又ハ指定銀行ノ名称ヲ特殊スルモ右ハ特殊セラレサルモノト看做ス

註、原案ニハ此処ニ「又ハ“and Co.”ナル語」トアリタルヲ會議ニ於テ削除シタリ蓋シ右ハ銀行ニ類スルモノヲ指シテ
“and Co.”ト謂フタルニテ既ニ「銀行又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル語」トアル以上更ニ「銀行ニ類スルモノ」ヲ附加
スルノ必要ナシト見タルニ由ル

新第三十八条ハ左ノ如シ

一般線引小切手ハ支払人ニ於テ銀行又ハ支払人ノ得意(註一)ニ対シテノミ之ヲ支払フコトヲ得
特定線引小切手ハ支払人ニ於テ被指定銀行ニ対シテノミ若シ被指定銀行カ支払人自身ナルトキハ(註二)自己ノ得意ニ
対シテノミ之ヲ支払フコトヲ得但被指定銀行ハ他ノ銀行ヲ介シテ右小切手ノ取立ヲ為スコトヲ得(註三)

銀行ハ自己ノ得意又ハ他ノ銀行ヨリ取得スル場合ノ外線引小切手ヲ取得スルコトヲ得又自己ノ得意又ハ他ノ銀行以外
ノ者ノ勘定ニ振込ムタメニ線引小切手ノ取立ヲ為スコトヲ得ス(註四)

数個ノ特定線引アル小切手ハ支払人之ヲ支払フコトヲ得但シ二箇ノ特定線引アリテ其ノ一ハ手形交換所ニ於テ為ス取
立ヲ委託スル為メニ為サレタルモノナルトキハ此ノ限リニアラス(註五)

以上ノ規定ヲ遵守セサル支払人又ハ銀行ハ為メニ生シタル損害ニ付小切手ノ金額ヲ限度トシテ賠償ノ責ニ任ス

註一、支払人ノ得意モ亦支払ヲ受ケ得ルコト、ナシタル所以ハ線引小切手ノ所持人カ支払銀行ノ得意ニシテ支払銀行之
ヲ熟知セルニ拘ラス右所持人ハ線引タルカ為メニ他ノ銀行ヲ介スルニアラサレハ之カ取立ヲ為シ得スルカ如キハ
實際ニ適セス而カモ此ノ場合支払銀行カ其ノ得意ニシテ予テ熟知セル所持人ニ対シ直接支払ヲ為シ得ルモノト為スモ
些カモ線引ノ目的ニ反スル処ナシト謂フニ在リ

註二、被指定銀行カ支払人自身ナルトキハト謂ヘルハA銀行支払ノ小切手ニ特定線引ヲ為シ二線内ニA銀行ト記載シタ
ル場合ヲ見タルモノニシテ此ノ場合ハ第一項ノ趣旨ニ從ヒA銀行ハ自己ノ得意ニ対シテノミ支払ヲ為シ得ルモノトナ

シタルナリ

註三、帝國代表ハ會議ニ於テ他ノ銀行ニ取立ヲ託スル方法ヲ釈明シタルニ右ハ本条第四項ノ方法ニ依ル場合ノ外取立委
任裏書ニ依ルモ將又小切手ノ表面ニ被指定銀行カ他ノ銀行ニ更ニ取立ヲ託スル旨ヲ記載スルニ依リテモ為シ得ルコト
ニ解釈一致シ之ヲ「ラポート」ニ明記スルコト、ナレリ

註四、第三項ヲ新設シタル理由ハ線引ノ目的ヲ達セム為メニハ一般銀行業者ニ対シ未知ノ者ヨリ線引小切手ヲ取得シ又
ハ未知ノ者ノ為メニ線引小切手ノ取立ヲ為スカ如キコトヲ禁スル必要アリト認メタルニ由ル

註五、第四項ハ葡ノ提案ニ基クモノニシテ其ノ但書ハ交換所ニ加入シ居ラサル銀行ヲ被指定銀行トシタル特定線引小切
手ニアリテハ其ノ被指定銀行ハ此ノ小切手ニ更ニ特定線引ヲ為シテ交換所加入銀行ヲ二線内ニ記載シ右交換所加入銀
行ニ託シテ交換所ニ小切手ヲ持出サシメ以テ取立ヲ為ス場合ヲ見タルモノニシテ此ノ場合ニ限リ一小切手上ニ二箇ノ
特定線引ヲ許ス趣旨ナリ右ハ英國ノ慣習ヲ見テ規定セラレタルモノトス

新条(新第三十九条)

本条ハ計算小切手ヲ規定シタルモノニシテ計算小切手ナル制度ハ現金ノ授受ヲ省略スルト共ニ不正取得者カ小切手ヲ取
立ツルノ危険ヲ防止スルコトヲ目的トスルモノニシテ計算小切手ノ所持人ハ支払人ヨリ現金ノ支払ヲ受クルヲ得ス或ハ
之ヲ支払人ニ預金トナシ或ハ之ヲ支払人ニ対スル所持人ノ債務ノ弁済ニ充テ或ハ支払人ト預金勘定ヲ有スル第三者ノ勘
定中ニ振込ム等所謂振替ノ方法ヲ以テノミ決済セラル、小切手ナリ歐大陸ニ於テハ此ノ制度ヲ採用セルモノ十数ヶ国ニ
達シ又線引小切手及計算小切手ノ両制度ヲ並用セルモノモ数箇国アリ線引小切手ト共ニ計算小切手ヲモ統一法中ニ規定
シ置ケハ各国々民ハ自ラ兩制度ニ馴レ從テ将来ノ法制統一ヲ期シ得ヘシトノ見地ヨリ本条ノ新設ヲ見ルニ至リタルモノ
トス

新第三十九条ノ規定ハ左ノ如シ

小切手ノ振出又ハ所持人ハ小切手ノ表面ニ「計算ノ為メ」("payable in account" "à porter en compte")又ハ之ト同一ノ意義ヲ有スル語ヲ横書スルニ依リテ之カ現金ノ支払ヲ禁スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ支払人ハ其ノ小切手ヲ記帳ノ方法(勘定ノ貸方ニ記入スルコト或者ノ勘定ヨリ他ノ者ノ勘定ニ移スコト帳簿ニ依ル決済或ハ手形交換所ノ決済)ニ依リテノミ決済スルコトヲ得記帳ニ依ル決済ハ支払ニ同シ

「計算ノ為メ」ナル語ヲ抹削スルモ右ハ抹削セラレタルモノト見做ス

以上ノ規定ニ従ハサル支払人ハ為メニ生シタル損害ニ付小切手ノ金額ヲ限度トシテ賠償ノ責ニ任ス

(第六章) 支払拒絶ノ場合ニ於ケル遡及權

第十九条

本条ハ留保規定ナルヲ以テ附屬書第二十九条ニ移ス

第二十条 (新第四十条)

原案通り可決

但原案ハ二項ニ分カレ居リタルモ之ヲ結合シテ一項トシ尚ホ原案ニテハ呈示及支払拒絶ヲ証明スルヲ要ストアリタルニ新第四十条ハ右ノ「呈示及」ナル文字ヲ削除シ単ニ支払拒絶ヲ証明スルヲ要スト改メタリ

第二十一条 (新第四十一条)

本条ニ関シ伊、独、仏、蘭其ノ他ノ諸国ヨリ夫々修正案提出セラレ討議ノ結果會議ハ独伊ノ折衷案ヲ採用スルニ決シタリ

新第四十一条ハ左ノ如シ

支払拒絶証書又ハ之ト同様ナル証明ノ宣言ハ呈示期間前ニ作成スルコトヲ要ス

呈示期間ノ末日ニ小切手ヲ呈示シタル場合ニ在リテハ支払拒絶証書又ハ之ト同様ナル宣言ハ次ノ第一營業日ニ作成セシムルコトヲ得

註、第二項ハ欧大陸諸国ニ於テハ小切手ノ所持人カ呈示期間ノ末日ニ其ノ取立テ銀行ニ委託スル実例頗ル多ク此ノ場合ニ其ノ支払カ拒絶セラレタルトキ銀行ハ即日支払拒絶証書ヲ作成セシムルコトハ不可能ナルコト屢々ナルヲ以テ一日ノ猶予ヲ与フルヲ可ナリト認メ此ノ規定ヲ為スニ至リタルモノトス

註、新第四十二条乃至第四十四条ハ原案第二十三条ノ項参照

第二十二条 (新第四十五条)

原案通可決

註、本条第三号ニ其ノ他ノ費用トアルハ法定ノ通知以前ニ所持人ヨリ前者ニ対スル通信ノ費用或ハ小切手ノ運送賃等ヲ支出シタル場合之ヲ請求シ得シムル趣旨ナリ

第二十三条 (新第四十二条乃至第四十四条第四十六条及第四十七条)

原案通可決即

新第四十二条ハ手形統一法第四十五条

新第四十三条ハ同法第四十六条

新第四十四条ハ同法第四十七条

新第四十五条ハ同法第四十九条

新第四十七条ハ同法第五十条

ニ夫々相当スルモノニシテ唯手形統一法ニ於ケル右各条ニハ支払拒絶証書トアルヲ小切手法ニ於ケル右各新条ニハ支払拒絶証書又ハ之ト同様ナル宣言ト改メタル点ニ差違アルノミ

新条（新第四十八条）

帝国代表ハ訓令乙七ニ基キ小切手ニ付テモ手形統一法第五十四条ト同様ノ規定ヲ為スヘキコトヲ提議シ其ノ趣旨ハ直チニ會議ノ採用スルトコロトナリタルモ不可抗力ノ繼續期間ニ付小切手ノ短期支払証券タル性質ニ鑑ミ之ヲ十五日ト定ムルニ至レリ是レ新第四十八条ニシテ其ノ条文左ノ如シ

第一項 手形統一法第五十四条第一項ト同様

第二項 同第二項ト同様

第三項 同第三項ト同様

第四項 不可抗力カ呈示期間經過前ト雖モ所持人ニ於テ其ノ裏書人ニ不可抗力ノ通知ヲ為シタル日ヨリ十五日以上繼續スルトキハ呈示又ハ拒絕証書又ハ之ト同様ナル宣言ヲ要セスシテ遡及權ヲ行使スルコトヲ得

第五項 手形統一法第五十四条第六項ト同様

註、手形統一法第五十四条第四項ハ定日払及確定期払手形ニ関スル規定ナルヲ以テ小切手ニハ同条第五項ヲ準用スルコト、ナレルナリ

（第七章） 複本

第二十四条（新第四十九条）

原案ハ左ノ如ク修正セラル是レ複本ノ發行ヲ許ス場合ヲ明確ニスト共ニ手形統一法ト一致セシメムカ為メナリ即チ新第四十九条ノ条文ハ左ノ如シ

一国ニ於テ振出し他国又ハ払出国ノ海外領土ニ於テ支払フヘキ小切手之ト反対ノ小切手若クハ一国ノ海外領土ニ於テ振出し且支払ハルヘキ小切手又ハ一国ノ海外領土ニ於テ振出し其ノ国ノ他ノ海外領土ニ於テ支払フヘキ小切手ハ所持

人払式ノモノヲ除キ何レモ同一ノ数通ヲ以テ之ヲ振出スコトヲ得

小切手ニ複本アルトキハ其ノ証券ノ本文中ニ番号ヲ附スルコトヲ要ス之ヲ欠クトキハ各複本ハ之ヲ各別ノ小切手ト看做ス

第二十五条（新第五十条）

原案通可決

（第八章） 変造

第二十六条（新第五十一条）

原案中手形統一法第六十九条ノ規定ヲ小切手ニ準用スル部分ノミヲ其ノ儘可決シテ右ト同様ノ規定ヲ新第五十一条ニ置キ原案其ノ余ノ部分ハ不必要ニ付削除シタリ

（第九章） 時効

第二十七条（新第五十二条）

帝国代表ハ訓令乙八ニ基キ本条第一項ノ時効期間ヲ一年ト改ムルノ修正案ヲ提出シタルモ英国外六ヶ国ノ賛成ヲ得タルニ止マリ結局十五票ノ多数ヲ以テ否決セラレタリ

會議ハ本条ノ規定中ニ手形保証人ヲモ含マシムル趣旨ニテ原案ヲ修正シ新第五十二条ハ左ノ如ク規定ス

裏書人振出人其ノ他小切手上ノ義務ヲ負担スル者ニ対スル所持人ノ遡及權ニ付テハ呈示期間經過ノ日ヨリ起算シ六月ヲ以テ時効期間トス

小切手上ノ義務ヲ負担セル者ノ他ノ小切手上ノ義務者ニ対スル遡及權ニ付テハ其ノ義務者カ小切手ノ償還ヲ為シタル

日又ハ之ニ対シテ訴ノ提起アリタル日ヨリ起算シ六月ヲ以テ時効期間トス

註一、右各時効期間ノ計算ニ付テハ新第五十六条ノ適用アリ從テ第一項ノ時効ハ呈示期間ノ末日ハ之ヲ期間ニ算入セス其ノ翌日ヨリ進行ヲ始ムルモノトス是レ議長ノ説明ニシテ仏正文ニ依レハ呈示期間ノ末日ヨリ起算スルモノナルコト明白ナリト云フ

註二、時効中断ノ方法ハ本規定ノ関スルところニ非サルヲ以テ各国法ニ委セラレタルモノトス而シテ本条第二項ノ訴提起ノ日ヨリ時効ノ進行ヲ認ムルニ対スル中断ノ方法ニ付テハ独逸ニハ民法第二百九条アリ仏国ニ於テモ訴提起アリタルコトノ公證ヲ得テ前者ニ其ノ公證アル通知ヲ為セハ中断ノ効力アリト為スモノ、如シ（ベルスロー教授説明）

第二十八条（新第五十三条）

原案通可決

（第十章） 通則

新条（新第五十四条）

本条ハ本法各条ニ用ヒタル銀行ナル語ノ解釈規定ニシテ左ノ如シ

本法ニ於テ用ヒタル銀行ナル語ハ法律ニヨリテ銀行ト同視セラル、人又ハ組織ヲ含ムモノトス

第二十九条（新第五十五条乃至第五十七条）

新第五十五条ハ手形統一法第七十二条ト同趣旨ノ規定ニシテ左ノ如シ

小切手ノ呈示若クハ支払拒絶証書ノ作成ハ營業者ニ於テノミ之ヲ為スコトヲ得

小切手ニ関スル何等カノ行為殊ニ呈示若クハ支払拒絶証書又ハ之ト同様ナル宣言ノ作成ニ付本法ノ規定シタル期間ノ末日カ法定ノ休日ニ当ル場合ニハ期間ハ其ノ満了ニ次ク第一ノ營業日迄之ヲ延長ス但期間中ノ休日ハ之ヲ期間ニ算入

ス

新第五十六条ハ手形統一法第七十三条ノ趣旨ヲ採レルモノナルモ規定ノ体裁ヲ改メテ左ノ如クシタリ

本法ニ規定スル期間ニ付テハ其ノ初日ヲ期間ニ算入セス

新第五十七条ハ手形統一法第七十四条ト全ク同様ナリ

第二章 小切手条約附属書第二留保規定

第一条 各締約国ハ本条約ノ効力發生後六月間ニ限り其ノ領域内ニ於テ振出ス小切手ニ統一法第一条第一号ニ掲ケタル「小切手」ナル名称ヲ記載スルヲ要セサル旨及同条第五号ニ定メタル振出地ヲ記載スルヲ要セサル旨ノ規定ヲ設クルコトヲ得

註、本条前半ハ手形統一法附属書第二（以下略シテ手形ノ留保規定ト呼ブ）第一条ト同様ニシテ又其ノ後半ハ訓令乙二ニ基ク帝国代表ノ要求ニ依リテ認メラレタルモノトス

第二条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於ケル小切手上ノ約束ニ付實際ノ署名ニ代ハル方法ヲ定ムルコトヲ得但小切手ニ記載シタル公ノ宣言ヲ以テ署名ヲ為スヘカリシ者ノ意思ヲ確認スルコトヲ要ス

註、本条ハ手形ノ留保規定第二条ニ同シ

第三条 各締約国ハ統一法第二条第三項ノ規定ニ拘ハラス支払地ノ記載ナキ小切手ハ振出地ニ於テ支払ハルヘキモノト看做ス旨ノ規定ヲ設クルコトヲ得

註、本条ハ帝国代表ノ要求ヲ容レタルモノトス

第四条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テ振出シ且支払ハルヘキ小切手ニ付銀行又ハ法律ニ依リ銀行ト同視セラル、人又ハ組織以外ノ者ニ宛テ、振出シタル小切手ハ小切手トシテ無効ナリト決定スルノ權能ヲ留保ス

註、本条ハ伊太利提案ヲ採用シタルモノニシテ尚各締約国ハスル小切手ノ振出ニ付其ノ民事上刑事上及税法上ノ効果ヲ定ムルコトヲ得ヘク此ノ事ハ「ラポート」ニ記載ス（原案第五条第二項参照）

第五条 各締約国ハ振出人カ支払人ニ対シテ資金ヲ有スルコトヲ要スル時間ヲ定ムルコトヲ得

註、各締約国ハ更ニ統一法第三条ノ規定ニ従ハサル小切手ノ振出ニ付其ノ民事上刑事上及税法上ノ効果ヲ定ムルコトヲ得ヘク此ノ事ハ「ラポート」ニ明ニス

第六条 各締約国ハ支払人ニ於テ小切手上ニ支払保証 (certification) 確認 (confirmation) 査証 (visa) 其ノ他同様ナル宣言ノ記載ヲ為シ得ル旨及其ノ法律上ノ効果ヲ定ムルコトヲ得但スル記載ニ引受ノ効力ヲ認ムルコトヲ得ス

註、本条ハ原案第十一条第二項ニ対スル「ポーランド」ノ修正案ヲ採用シタルモノニシテ原案ニアリタル「引受」ナル文字ハ之ヲ削除シタリ蓋シ引受ハ手形法上一定ノ意義ヲ有シ之ヲ小切手ニ記載スルヲ許スハ誤解ノ因トナルヲ以テスル留保ハ之ヲ認メサルコト、ナリタルモノトス

第七条 各締約国ハ統一法第五条及第十四条ノ規定ニ拘ラス其ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニシテ「譲渡シ得ス」(not transferable) ナルアルモノニ付スル小切手ハ右ノ記載ヲ為シテ交付ヲ受ケタル所持人ニ対シテノミ之ヲ支払フコトヲ得ル旨ヲ規定スルノ権能ヲ留保ス

註、是レ振出人ニ於テ裏書ヲ禁止シタル小切手ハ絶対的ニ之ヲ他ニ譲渡シ得スト定メ得ルノ留保ヲ認メタルモノトス

第八条 各締約国ハ統一法第六条ノ規定ニ依リテ認メラレタル場合以外ニモ小切手ハ振出人自身ニ宛テ、振出スコトヲ得ルヤ否ヤヲ決定スルノ権能ヲ留保ス

註、本条ハ和蘭等北歐諸国及「ポーランド」ノ提案ニ基クモノトス

第九条 統一法第六条ノ規定ニ拘ラス各締約国ハ小切手ヲ振出人自身ニ宛テ、振出シ得ルコトヲ一般原則トシテ認ムルカ（本附属書第八条）或ハ振出人自身ニ宛テタル小切手ハ数個ノ營業所ヲ有スル場合ニ於テノミ振出シ得ルモノト認ムル

カ（統一法第六条）其ノ何レニスルモ此ノ種ノ小切手ヲ所持人払式ニテ振出スコトヲ禁スルノ権能ヲ留保ス

註、原案第四条第五項参照

第十条 各締約国ハ統一法第八条ノ規定ニ拘ラス小切手ハ銀行ニアラサル第三者ノ住所ニ於テ支払フヘキモノトナシ得ルコトヲ認ムルノ権能ヲ留保ス

第十一条 各締約国ハ統一法第十三条ヲ其ノ国ノ法律ニ規定セサルノ権能ヲ留保ス

註、手形ノ留保規定第三条参照

第十二条 各締約国ハ所持人払小切手ニハ統一法第二十一条ヲ適用セサルノ権能ヲ留保ス

註、本条ハ統一法第二十一条ニ関スル討議ニ於テ所持人払小切手ノ取得者ノ保護ニ反対セル国例ヘハ和蘭等ノ意向ヲ斟酌シタルモノトス

第十四条 各締約国ハ其ノ主権又ハ権力 (his sovereignty or authority) ノ下ニ在ル領域ニ付テ統一法第二十九条第一項ニ規定シタル期間ヲ延長シ且其ノ呈示期間ヲ定ムルノ権能ヲ留保ス（註一）

各締約国ハ統一法第二十九条第二項ノ規定ニ拘ラス相異ル大陸（註二）ニ於テ又ハ欧羅巴以外ノ大陸ニ於ケル相異ル国（註三）ノ間ニ振出サレ且支払ルルヘキ小切手ニ付右第二項ニ規定シタル期間ヲ延長スルノ権能ヲ留保ス

二又ハ二以上ノ締約国ハ相互ノ領域間ニ於テ振出サレ且支払ハルヘキ小切手ニ付統一法第二十九条第二項ニ定メタル期間ノ變更ニ関シ協定ヲ為ス権能ヲ有ス（註四）

註一、本国殖民地間ノ小切手ノ呈示期間ハ各国任意ニ定メ得ル趣旨ナリ

註二、例ヘハ亜細亜ト欧羅巴ノ如シ即本項ノ規定ニ依リ欧大陸諸国ト他ノ大陸ニ属スル諸国トノ間ニ流通スル小切手ニ付各国除外例ヲ設ケ得ル趣旨ニシテ此事ハ英文ニハ明カナラサルモ仏正文ニ於テ本項末尾 *autre* ヲ特ニ单数トナシタルニヨリ明白ナリトス

註三、例へハ亜細亜ニ於ケル日本ト中華民國又ハ印度トノ間ノ如シ

註四、例へハ土耳其ト独乙トノ間ニ振出し且支払ハル、小切手ハ統一法第二十九条第三項同第二項ニ依リ其ノ呈示期間二十日ナルモ両国間ノ協定ニ依リ之ヲ変更スルコトヲ得

註五、原案第十四条第三項参照

第十五条 統一法第三十一条ノ適用ニ付各締約国ハ其ノ国ノ法律ヲ以テ手形交換所ト認ムヘキ施設ヲ定ムルコトヲ得
註、手形ノ留保規定第六条原案第十四条第五項参照

第十六条 各締約国ハ統一法第三十二条ノ規定ニ拘ラス其ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニ付

(イ)呈示期間經過前ニアリテモ支払ノ委託ノ取消ヲ有効ト認メ(註一)

(ロ)呈示期間經過後ニアリテモ支払ノ委託ノ取消ヲ為シ得ス(註二)

ト定ムルノ権能ヲ留保ス(註三)

更ニ各締約国ハ小切手ノ喪失盗難ノ場合ニ執ルヘキ方法ヲ定メ且其ノ法律上ノ効果ヲ規定スルコトヲ得(註四)

註一、第一項(イ)ハ「スエーデン」其ノ他北欧諸国ノ要求ヲ容レタルモノニシテ

註二、第一項(ロ)ハ仏国ノ提案ヲ認メタルモノトス蓋シ仏法系ノ国ニ於テハ資金上ニ所持人ノ權利ヲ認ムルニヨリ此ノ留保ヲ必要トスレハナリ

註三、原案第十六条勸告二三参照

註四、第二項ハ「ポーランド」ノ提案ヲ採用セルモノナリ

第十七条 各締約国ハ其ノ国ノ通貨ノ為替相場ニ関スル特別ノ事情アル場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ其ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニ付テノ外国貨幣現貨ニ関シ統一法第三十六条ニ規定スル効力ヲ認メサルコトヲ得自国領域内ニ於ケル外国貨幣ヲ以テ表示シアル小切手ノ振出しニ付亦右原則ヲ適用ス

註、手形ノ留保規定第七条参照

第十八条 各締約国ハ統一法第三十七条第三十八条及第三十九条ノ規定ニ拘ラス其ノ国ノ法律ニ於テ単ニ線引小切手ノミヲ或ハ単ニ計算小切手ノミヲ認ムルノ権能ヲ留保ス但外国ニ於テ振出し各締約国ノ領域内ニ於テ支払ハルヘキ線引小切手又ハ計算小切手ハ夫々計算小切手又ハ線引小切手トシテ取扱ハルヘキモノトス
各締約国ハ又其ノ国ノ法律ニ於テ計算小切手タルコトヲ示スヘキ語ヲ定ムルコトヲ得

註、本留保条項ノ認メラレタル結果吾国ニ於テ線引小切手ノミヲ認メ独逸ニ於テ計算小切手ノミヲ認メタリトセンカ東京ニテ振出し伯林ニテ支払ハルヘキ小切手ニ線引ヲ為セハ伯林ニ於テハ之ヲ計算小切手トシテ取扱フコトナルカ故ニ此ノ点ハ何等カノ方法ニ依リ国民ニ知ラシムルノ必要アルヘク(例へハ計算小切手ノミヲ認ムル国ヲ告示スルカ如ク)又右ト反対ニ伯林ニテ振出し東京ニテ支払ハルヘキ計算小切手ハ東京ニ於テハ一般線引小切手トシテ取扱フヲ要スルコト、ナル処支那人ニ於テ計算小切手タルコトヲ知り得レハ何等ノ不都合ヲモ来サ、ルヘシト雖モ本留保規定第二項ニ依レハ各締約国夫々計算小切手タルコトヲ示スヘキ語ヲ定メ得ヘキカ故ニ時ニ外国取引先ヨリ日本ニ送付シ来レル小切手カ果シテ計算小切手ナルカ否カラ知ルニ付困難ヲ伴フコトアルヘク此ノ事ハ統一法第三十八条第三項ノ適用上ニモ大ナル關係ヲ有ス

第十九条 所持人ハ資金ノ上ニ特別ノ權利ヲ有スルヤ其ノ權利ノ効果如何ノ問題ハ統一法ノ関スルコロニ非ス
小切手振出しノ原因關係ニ関スル問題モ亦同シ

註、第一項ハ仏国提案ヲ採用シタルモノニシテ(原案第十九条参照)第二項ハ伊国提案ヲ修正ノ上採用シタルモノトス
第二十条 各締約国ハ振出し人ニ対スル適及權ノ行使ニ付テハ法定期間内ニ於ケル小切手ノ呈示及支払拒絶証書又ハ之ト同様ナル宣言ノ作成ヲ以テ其ノ条件ト為サ、ルコト及右適及權ノ効力ヲ定ムルノ権能ヲ留保ス
註、本条ハ伊太利ノ提案ヲ採用シタルモノトス(原案第二十条第三項乙参照)

第二十一条 各締約国ハ其ノ国ニ於テ支払ハルヘキ小切手ニ付週及權保全ノ条件トシテ統一法第四十条及第四十一条ニ規定スル支払拒絶ノ宣言ハ如何ナル場合ニ於テモ支払拒絶証書ノ形式ヲ以テスルヲ要シ他ノ之ト同様ナル証明ノ宣言ヲ以テスルヲ得サル旨ヲ規定スルノ權能ヲ留保ス（註一）

各締約国ハ亦統一法第四十条第二号及第三号ニ規定スル証明ノ宣言ハ拒絶証書作成期間内ニ公簿ニ登録スヘキ旨ヲ規定スルコトヲ得（註二）

註、本条第一、二項トモ仏国案ヲ採用シタリ

註一、原案第二十条第三項甲参照

註二、手形ノ留保規定第八条第二項参照

第二十二条 各締約国ハ統一法第四十二条ノ規定ニ拘ラス公務員ニ依ル通知ノ制度即チ其ノ国ノ法律ニ依リ拒絶証書作成ノ權限ヲ有スル公証人又ハ官吏カ拒絶証書ヲ作成スルニ当リ小切手業務者ノ住所カ小切手面ニ記載シアルカ又ハ拒絶証書ヲ作成スル右公務員カ之ヲ知レルカ若シクハ拒絶証書作成ノ依頼者ヨリ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ者ニ対シ書面ニ依ル通知ヲ為スコトヲ要スル制度ヲ維持シ又ハ創始スルコトヲ得此ノ通知ノ費用ハ拒絶証書作成ノ費用ニ加算セラル、モトス

註、本留保ハ「バタビア」ノ提案ニシテ手形ノ留保規定第十二条ニ同シ

第二十三条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テ振出サレ且支払ハルヘキ小切手ニ付統一法第四十五条第二号及第四十六条第二号ニ規定スル利率ニ代ヘ其ノ領域内ノ法定利率ニ依ル旨ヲ規定スルコトヲ得

註、本留保ハ「ポーランド」ノ提案ニ係リ手形ニ付テモ認メラル（手形ノ留保規定第十三条参照）

第三十四条 各締約国ハ統一法第四十五条ノ規定ニ拘ラス所持人カ被週及者ニ対シ其ノ国ノ法律ノ認ムル手数料ヲ請求スルコトヲ得ヘキ旨ノ規定ヲ設クルノ權能ヲ留保ス

小切手金ノ支払ヲ為シタル者カ其ノ金額ヲ前者ニ対シ請求スル場合ニ付テモ亦統一法第四十六条ノ規定ニ拘ラス前項ニ同シ

註、「チエッコスロバキア」「ユーゴスラヴ」「スイス」等ヨリ各同趣旨ノ提案ヲ為シタル結果此ノ留保ヲ認メタリ（手形ノ留保規定第十四条参照）

第二十五条 各締約国ハ其ノ領域内ニ於テハ失權（forfeiture of rights）又ハ時効ノ場合ニ資金ヲ供給セサル振出人若クハ不当利得（condiciones）ヲ為シタル振出人又ハ裏書人ニ対スル訴權ノ存在スルコトヲ定ムルノ自由ヲ有ス

註、本条ハ伊国提案ヲ容レタルモノニシテ手形ノ留保規定第十五条ニ同シ

第二十六条 裁判所ノ審理スヘキ小切手上ノ權利ノ時効ノ中断又ハ停止ノ原因ハ各締約国ノ法制ノ定ムル処ニヨル他ノ締約国ハ斯ル原因ヲ承認スルノ条件ヲ定ムルコトヲ得統一法第五十二条第二項ニ規定スル時効期間ノ始期ヲ定ムル方法トシテ訴ノ効果ニ付亦同シ

註、「ユーゴスラヴ」ノ提案ニ基キ此ノ留保ヲ認メタルカ手形ニ付亦同シ（手形ノ留保規定第十七条参照）

第二十七条 各締約国ハ呈示其ノ他小切手ニ関スル一切ノ行為ノ為メニ存スル期間ニ付テハ法定ノ休日ニ準スヘキ日ヲ定ムルコトヲ得

註、是レ仏国ノ提案ニシテ手形ノ留保規定第十八条ニモ同様ノ規定アリ

第二十八条 各締約国ハ支払ノ延期及週及權保全ノ為メノ期間ノ延長ニ付一般の性質ヲ有スル特別法ヲ制定スルコトヲ得註、是レ亦仏国ノ提案ニシテ「モラトリウム」ノ如キヲ見タルモノナリ手形ノ留保規定第二十二条ニ同シ

第二十九条 統一法ノ適用ニ付テハ如何ナルモノヲ銀行ト認メ又如何ナル人若クハ組織ヲ其ノ活動ノ性質ヨリ見テ銀行ト同一視スルカラ定ムルコトハ各締約国ノ權限内ニ属スルモノトス

註、本条ハ原案第五条第二項(イ)ニ対スル伊太利修正案並「ベルギー」修正案ノ趣旨ヲ採用シタルモノニシテ後段ニ於テ

特ニ「其ノ活動ノ性質ヨリ見テ」ナル文句ヲ挿入セルハ本条ノ留保アレバトテ其ノ活動ノ性質ヨリ見テ全然銀行ト見ルヲ得サルカ如キモノヲ各締約国ニ於テ擅ニ銀行ト同一視スルコトナカラシメム為メナリ

第三十条 各締約国ハ郵便小切手 (postal cheque 註一) ニ関シ又銀行發券 (註二) 金庫若クハ公共信用制度ニ特別ナル小切手ニ関シ自国ノ特別法ニ於テ是等ノ証券ニ付特ニ規定ヲ設クル限リ本条約ノ全部又ハ一部ヲ適用セサルノ權能ヲ留保ス

註、一、二、本条ハ伊太利ノ提案ニ基キテ認メラレタルモノニシテ郵便小切手トハ我国ニ於ケル振替貯金ノ如キモノニシテ独乙二行ハレ又銀行發券トハ銀行カ紙幣兌換券債權等ヲ發行スルコトヲ意味シ特ニ伊太利「バタビア」等ニ於テハ銀行ニ一定額ノ担保 (伊太利ニテハ發行額ノ四割相当ノ担保) ヲ供セシメテ紙幣ニ類スル小切手ノ發行ヲ許可シ居リテ之ヲ流通小切手ト称スル趣ナリ

第三十一条 各締約国ハ本附屬書第一条乃至第十三条第十四条第一項第二項第十五条第十六条第十八条乃至第二十五条第二十七条第二十九条及第三十条ニ遵由シテ他ノ締約国カ制定シタル規定ヲ認ムヘキモノトス

註、手形ノ留保規定第二十三条参照

第三章 小切手ニ関スル法律ノ抵觸ヲ規律スル条約

第一条 別個ノ条約トナル (第四章参照)

第二条 (新第一条)

原案通り可決

第三条 (新第二条)

手形抵觸法第二条ト一致セシムル為メ左記ノ如ク修正ス

小切手上ノ約束ヲ為ス人ノ能力ハ其ノ本国法ニ依リ之ヲ定ム

其ノ本国法ハ他ノ国ノ法律ニ依ルコトヲ定メタルトキハ右他ノ国ノ法律ヲ適用ス

前項ニ掲ケタル法律ニ依リ能力ヲ有セサル者ト雖モ署名カ他ノ国ノ領域ニ於テ為サレ該国ノ法律ニ依レハ右ノ者カ能力者ナルトキハ効力アルモノト看做サルヘシ

各締約国ハ其ノ国民カ為シタル小切手上ノ約束ニシテ他ノ締約国ノ領域内ニ於テ前項ノ規定ニ依ルニアラサル限リ有効ト看做サレサルモノ、効力ヲ認メサルコトヲ得

註、新第三条ハ原案第五条ノ項参照

第四条 (新第四条)

本条ニ付テハ伊国提案ヲ採用シ原案ニ代フルニ手形抵觸法第三条ニ則ルコト、シ且其ノ第一項ニハ原案第一項ニアル如キ但書ヲ附スルコト、シタリ蓋シ行為ノ方式ハ行為地法ニ依ルヲ原則トスルモ小切手ニアリテハ其ノ支払証券タル特質ニ鑑ミ同時ニ支払地法ヲモ認メテ選択ノ自由ヲ許シタルモノトス

新第四条ハ左ノ如シ

小切手上ノ約束ノ方式ハ其ノ約束カ署名セラレタル領域ノ国法ニ依リテ之ヲ定ム但支払地ノ法律ノ規定スル方式ニ遵由スルヲ以テ足ル

尤モ小切手上ノ約束カ前項ノ規定ニ依リ有効ナラサル場合ト雖モ右カ後ノ約束ノ為サレタル国ノ法律ニ適合スルトキハ前ノ約束カ方式上違法ナルノ事態ハ後ノ約束ノ効力ヲ妨ケス

各締約国ハ其ノ自国民カ外国ニ於テ為シタル小切手上ノ約束カ自国ノ法律ニ依リ規定セラレタル方式ニ依リ為サレタル限リ自国ノ領域ニ於テ他ノ自国民ニ対シ効力アルモノト規定スルコトヲ得

第五条 (新第三条)

原案第五条ハ其ノ儘之ヲ可決シテ新第三条第一項トシ更ニ新第三条ニハ其ノ第二項トシテ次ノ規定ヲ設ク即
新第三条ハ左ノ如シ

第一項 原案第五条ニ同シ

第二項 此ノ法律ニ於テハ證券カ支払人トスヘカラサル人ヲ支払人トシタルカ為メ小切手ヲシテ無効ナルトキト雖モ
之ヲ有効ト規定セル他ノ国ニ於テ其ノ証券ニ為シタル署名ヨリ生スル義務ハ猶ホ其ノ効力アルモノトス

第六条 (新第五条)

原案通り可決但正文ノ字句ヲ修正シタリ

新条 (新第六条)

伊国提案ヲ採用シテ小切手ニ関シテモ手形抵触法第五条ト同趣旨ノ規定ヲ設クルコトナリ新第六条之ヲ規定ス即左ノ
如シ

遡及権行使ノ期間ハ一切ノ署名者ニ付該証券作成地ノ法律ニ依リ之ヲ決定ス

註、時効中断ニ付テハ本条ノ関スル処ニアラス從テ國際私法ノ一般原則ニ從フノミ

第七条乃至第十三条及第十五条 (新第七条)

起草委員会ハ支払地法ニ依ルヘキ場合ヲ新第七条ニ一括規定シタルヲ以テ右ニ掲記シタル原案各条ニ付テハ會議ニ於テ
修正ヲ見タルモノ、ミヲ摘記セムニ

(一) 原案第八条及第九条ハ之ヲ併セ規定スルト共ニ帝國代表ノ訓令丙ニ基ク提案並独逸提案ニ從ヒ引受支払保証ノミナラ
ス確認及査照ニ関シテモ同様ノ準拠法ヲ定ムルニ決シ之ヲ新第七条第三号ニ規定シタリ而シテ既ニ總論ニ述ヘタル如
ク會議ノ際聯盟事務局側ヨリ各国代表ニ対シ夫々其ノ国ニ行ハル、此等ノ制度ノ報告ヲ求メタル上其ノ報告ヲ取纏メ
タル後印刷ニ付シ各国政府ニ通知スルコト、ナリタルヲ以テ確認査照ノ意義及其ノ効力ハ茲ニ説明ヲ省略ス

尚帝國代表ハ日本ニ行ハル、支払保証ニ付本報告書末尾ニ添付ノ別紙ノ通り報告ヲ為シ置キタリ

(二) 原案第十二条ハ線引小切手ノミニ関スル規定ナリシカ計算小切手ニ付テモ亦準拠法ヲ必要トスルカ故ニ新第七条第五
号ニ右兩者ニ関スル規定ヲ設クルニ至レリ

(三) 原案第十三条ハ一部支払受諾ノ義務ノ有無ノミニ関スル規定ナリシカ伊太利ノ提案ニヨリ所持人カ一部支払ヲ要求シ
得ルヤ否ヤニ付テモ支払地法ニヨリテ決スルコト、シ之ヲ新第七条第四条ニ規定シタリ

(四) 原案第十五条ハ所持人破産ノ場合ニ於テ採ルヘキ手段ニ付テモ支払地法ニ依ルト定メタルカ會議ニ於テハ之ヲ削除シ
タリ蓋シ手形抵触法ト一致セシメタルモノナリ

(五) 次ニ新第七条ハ其ノ第一号ニ於テ後日附小切手ノ効果ニ付其ノ第七号ニ於テ支払委託ノ取消及支払差止ニ関シ其ノ第
九号ニ於テ遡及権保全ノ条件トシテ拒絶証書ヲ要スルヤ否ヤノ点ニ付夫々規定ヲ設ケタリ

新第七条ノ条文左ノ如シ

左記各号ニ掲クルモノハ小切手ノ支払地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ム

一、小切手ハ必ス一覽払タルヲ要スルヤ否ヤ一覽後定期払ノ小切手ヲ振出シ得ルヤ否ヤ更ニ又後日附小切手ノ効果如
何 (原案第十条参照)

二、呈示期間 (原案第十一条参照)

三、小切手ニ引受支払保証確認又ハ査照ヲ為シ得ルヤ否ヤ及右各行為ノ夫々ノ効果如何 (原案第八条及第九条参照)

四、所持人ハ一部支払ヲ要求シ得ルヤ否ヤ又所持人ハ一部支払ヲ受諾スルノ義務アリヤ否ヤ (原案第十三条参照)

五、小切手ニ線引ヲ為シ若クハ「計算ノ為メ」又ハ之ト同様ナル語ヲ記載シ得ルヤ否ヤ及線引若クハ「計算ノ為メ」
又ハ之ト同様ナル語ノ記載ノ效果如何 (原案第十二条参照)

六、所持人ハ資金上ニ特別ノ權利ヲ有スルヤ否ヤ又此ノ權利ノ性質如何 (原案第七条参照)

七、振出人ハ小切手ノ支払ノ委託ヲ取消シ又ハ支払差止ノ手續ヲ執リ得ルヤ否ヤ（新設）

八、小切手ノ喪失盜難ノ場合ニ執ルヘキ手段（原案第十五条参照）

九、裏書人振出人其ノ他小切手上ノ義務者ニ対スル遡及權保全ノ為メニ支払拒絶証書若クハ之ト同様ナル宣言ヲ必要トスルヤ否ヤ（新設）

註、右第九号ハ小切手ノ支払証券タル性質ニ鑑ミ支払地法ニ依ラシムルヲ適當ナリト認メタルモノナリ

第十四条（新第八条）

原案通り可決

註、支払拒絶ノ通知ノ方式及効力ハ何レノ国ノ法律ニ依ルカラ議場ニテ釈明シタル処議長ハ是レ本条ノ関スル処ニアラスト言ヒ伊国代表ハ支払拒絶ノ通知ヲ遡及權保全ノ要件トセル非締約国アレハ本条ノ適用ヲ見ルニ至ルヘシト補足シタリ

註、原案第十五条ハ新第七条第八号参照

第十六条（新第九条）

原案通り可決

註、原案ニハ「本条約又ハ本規則ニ規定シタル国際私法」トアリタルモ既ニ抵触法自体ヲ一条約トナシタル以上「又ハ本規則」ト附加スル必要ナキヲ以テ新第九条ニ於テハ之ヲ削除セリ

新条（新第十条）

小切手ニ関シテモ手形抵触法第十一条ト同様ノ規定ヲ設クル要アリ是レ新第十条ニシテ其ノ条文左ノ如シ

各締約国ノ領域内ニ於テ本条約ノ規定ハ本条約ノ効力發生ニ際シ既ニ振出サレタル小切手ニ適用セラレサルヘシ

以上ノ外尚新条トシテ第十一条乃至第十九条ヲ加ヘタリ是レ条約ノ効力署名期間批准期間其ノ他条約トシテ具備スルコ

トヲ要スル条項ニシテ直接抵触法規ニ關係ナク殊ニ其ノ要旨ハ既ニ總論ニ於テ摘示セルヲ以テ之ヲ略ス

第四章 小切手ニ関スル^{（印紙法）}抵触法条約

第一条（新第一条）

原案ハ之ヲ為替手形ニ関スル印紙法条約第一条ト一致セシメ又之ト同様其ノ第二項ニ「其ノ規定スル印紙税ノ支払」トアリタルヲ「其ノ規定スル印紙税ノ支払又ハ科セラレタル料金ノ支払」ト改メタリ而シテ原案ニテハ単ニ「各自ノ法律ヲ改正スルコトヲ約ス」トアリタルカ起草委員会ニ於テ「締約国ハ本条約ノ適用アルヘキ其ノ主權又ハ權力ノ下ニ在ル一切ノ領土ニ於テ各自ノ法律ヲ改正スルコトヲ約ス」ト改メタル外原案通り可セラレタリ

註、本条ニ於テ「即時執行」トアルハ敢テ判決等ヲ要セス小切手自体ヲ債務名義トシテ直チニ強制執行ヲ為シ得ルコトヲ意味スルモノニシテ伊太利ニ行ハル、制度ナリ

尚ホ本条約附屬議定書ニ在リテハ為替手段ノ場合ニ於テ英国及其ノ領土ノ為メ設ケラレタルCヲ削除スルコトヲ英国代表ニ於テ同意セル外其ノ他ノ条項ハ全然為替手形印紙法条約ニ同シ

編 注 本報告書は、昭和六年四月九日付在パリ澤田（節蔵）国際連盟帝国事務局長より幣原外務大臣宛公信機密連本

公第二七四号によって本件會議の報告書として送付されたものである。